
トラック8『主さま、お慕いしております……これからも側に置いてください』

【琴葉】

「主さま……わたくしに触れていただいて……ありがとうございます」

【琴葉】

「ずっとお慕いしていた主さまと、一つになれるなんて……これは現実なのでしょうか？」

【琴葉】

「例え夏の夢だとしても、冷めて欲しくはありません……」

【琴葉】

「あっ……風鈴が鳴っています。気持ちいい夜風が吹いていますね」

【琴葉】

「火照った肌を冷ますには、ちょうどいいかもしれません」

【琴葉】

「主さま、いかがなされたのですか？ そんなに体を寄せて……」

【琴葉】

「いえ、迷惑などでは……ただ、まだ肌は火照っていますよ？ 暑いのではないかと」

【琴葉】

「わたくしは大丈夫です。だって主さまの温もりを感じられるから……」

【琴葉】

「えへへ、主さま、甘えん坊の子どもみたいです？ もっとこちらへ……」

【琴葉】

「主さま、こちらを向いて頂けますか？」

【琴葉】

「主さま……とても激しくて素敵でした。わたくし、あんなに感じて乱れてしまうなんて……恥ずかしい……」

【琴葉】

「その……おしっこまで漏らしてしまって……ううう～……本当に申し訳ございません……」

【琴葉】

「いえ、主さまは悪くないんです。わたくしがお仕置きを望んだのですから」

【琴葉】

「それにお尻を叩かれたとき、その……えっと……」

【琴葉】

「すごく気持ちよかったです……えへへへ」

【琴葉】

「いつもの優しい主さまも好きですが、激しい主さまも大好きです」

【琴葉】

「あんなに何度も何度も激しく突き上げられて、子宮を揺らされて……思い出しただけでも、また火照ってしまいます……」

【琴葉】

「あれはやはり夢ではなかったのですね。今も主さまの熱が、わたくしの中にありますから」

【琴葉】

「主さま……わたくしにいっぱい注いでくださって、ありがとうございます……」

【琴葉】

「本当に主さまには、どのようにして御恩をお返しすればいいのか……」

【琴葉】

「いえ、決して大袈裟ではありません。わたくしの人生は、主さまと出逢ったことで一変したのですから」

【琴葉】

「主さまの好きなところ……ですか？ 全てが好きです。嫌いなところを探すのが難しいくらいで……」

【琴葉】

「えへへ……だからいつでも、わたくしは主さまのことを考えているのですよ？」

【琴葉】

「どうすれば喜んで頂けるのか、どうすれば癒やすことができるのか……」

【琴葉】

「ずっとずっと考えて、幸せな時間を過ごしています。主さまのことを考える時間は、とても幸せですから」

【琴葉】

「だから主さまから頂いた幸せを、少しでもお返しできたらなあって……」

【琴葉】

「わたくしは、どうすればよろしいでしょうか？ どうやって、御恩をお返しすればよろしいでしょうか？」

【琴葉】

「えっ？ 抱きしめるだけでよろしいのですか？ もっと他にわたくしにできることがあれば……」

【琴葉】

「ひょっとして、主さまは甘えたいのですね？ えへへ……隠さなくてもいいですよ」

【琴葉】

「そうですよね、いつも一生懸命に頑張って、わたくしにまで優しくして……主さまだって誰かに甘えたいですよね？」

【琴葉】

「さあ……こちらへ……えへへ、なでなで……よしよし……」

【琴葉】

「わたくしの胸でよければ、顔を埋めてください。小さくて恥ずかしいですが……」

【琴葉】

「えへへ……主さま、ぎゅううう～～っ！」

【琴葉】

「主さま……聞こえますか？ とくんっ、とくんっ——て、わたくしの鼓動が……」

【琴葉】

「いいこ、いいこ……なでなで……安心して下さいね。ぎゅ～って抱きしめていますから」

【琴葉】

「甘えてくれる主さまも、すごく魅力的です。なんだか胸がキュンキュンして、優しい気持ちになって……」

【琴葉】

「主さま、体がじわーっと温かくなっていますよ？ 眠いのでしたら、このままお休みください」

【琴葉】

「わたくしも失礼して、一緒にお休みさせていただきます。主さまを胸に抱きながら眠れるなんて、とても幸せな夢が見られそうです」

【琴葉】

「主さま……お休みなさい……愛しています。——ちゅっ！」